

道

の駅うらほろ（浦幌町産業交流施設）が9月11日、午前10時にオープンします。

7月31日に北海道で109番目の道の駅として登録された「道の駅うらほろ」では、町内の特産品販売や公共施設、飲食店などの情報、さらには、町内外の観光情報などを発信し、また、利用者に対する「癒し」「くつろぎ」空間を提供し、地域活性化の拠点施設となるよう期待されています。

施設の管理運営については、7月27日の第4回浦幌町議会臨時会で議決を得て、「道の駅うらほろ直売会（代表：稲垣和幸氏）」を指定管理者として指定しました。指定期間は、施設オープン日の平成21年9月11日から平成24年3月31日までの2年7カ月。指定管理料は、年度協定において定められますが、平成21年度分の指定管理料は、直売会の施設使用料（5万4千円×7カ月＝37万8千円）を差し引き26万4千円となります。

「道の駅うらほろ直売会」では、8月7日に道の駅で提供するメニューの試食会を行うなど、9月11日のオープンに向け、急ピッチで詰めの準備を進めています。

オープン目前に急ピッチで建設が進む道の駅



指定管理者の選定

施設 設の管理運営にあたる指定管理者の指定にあたっては、指定管理者選定委員会において聴き取り調査を行いながら審査しました。

今回の指定管理者選定委員会は、役場職員4人の他に識見者として経済団体から2人、利用者代表とし

9月11日 道の駅うらほろオープン

「道の駅うらほろ直売会」を指定管理者に指定

て観光協会、旅行会社から各1人の民間の方を委員に委嘱し、意見をいただきました。選定は、指定管理者の指定手続等に関する条例に基づき、

- ① 利用者の平等な利用及びサービスの向上、② 公の施設の効用の最大限の発揮、③ 施設の適切な維持管理及び管理経費の縮減、④ 安定した管理体制、資産その他の経営の規模及び能力、⑤ 利用者ニーズが反映される管理運営、⑥ 災害その他緊急時の連絡体制の確立といった基準に照らし、総合的に審査しました。

選定委員会では、「道の駅うらほろ直売会」が新設組織で実績がなく、また、新たな施設の管理ということとで心配な面も確かにあるものの、会員個々における経営実績や出品希望者会議からの約2年間にわたる取組み、意欲、さらには、聴き取り

調査の中で出された意見などを積極的に取り入れる姿勢を評価し、候補者として適切と判断されました。町議会においては、町民の理解を求めながら、町のため、町民のための道の駅として発展させていくよう、町の積極的なサポート、町民に対する情報公開を行うよう指摘がされました。

直売会の申請内容

◎基本となる接客対応については、「接客やおもてなし」をテーマとした各種セミナーなどに参加し、接客向上に努めるとともに苦情に対しては、即応に心がけ、即応できないものは町と協議しながら対応し、町の管理代行者としての強い認識を持って接客にあたる。

◎アンケートボックスを設置し、利用者ニーズの収集、分析を行い、管理運営に反映させる。

◎業務仕様書に基づく管理、清掃、保守により衛生環境を保ち、利用者に快適な環境を提供する。

◎施設内巡視により随時点検し、節水・節電に努め、維持管理コストの軽減に努める。

◎管理責任者1人、従業員2人の常時3人体制を維持し、常時会員を募り、直売会の組織形態も法人格の取得に向け取組中。

◎特産品などの販売に関しては、会員の出荷段階でのチェック、納品段階でのチェックにより品質管理を徹底し、農産物などの作付時期の調整や出荷時期の工夫により年間を通じ品揃えできるよう品薄感を与えないように在庫管理を徹底する。

◎道の駅独自の商品開発を研究中。(オープンには間に合わせたい)

◎交流センター内において子どもたちや各サークルによる絵画展や写真展などを企画するなど、地域との交流、利用者に対する「癒し」づくり、空間の提供に努める。

◎テイクアウトの自主事業により収支バランスをとる。

聴き取り調査の主な内容

(○印は選定委員会の発言
▼印は直売会の発言)

○従業員の確保、管理体制は。
▼常時3人体制を維持し、その他に臨時的職員2人程度確保済。状況に応じ会員がフォローする。
○施設利用料収入があまり見込め

ない中で収支の目途は。

▼道の駅メイン商品としてケーキ類でのテイクアウト品を模索検討中で、8月に試食会を行い決定の予定。道の駅でしか買えないものを売るとかして赤字を出さないようにし、仮に赤字が出た場合は役員が負つ。

○物産販売品の調達は、特に、農産物などは会員の中で生産時期が重なると思うが、現組織体制(会員)の中で十分か。年間を通じ品揃えをするためには、各自生産したものを持ってきて単価を付けて売るだけでなく、しつかりした作付計画や販売計画が必要である。

▼今年は9月オープンということできなかつたが、来年に向けて計画していく。会員も常時受け付けていく。

○旅行会社などから時間を指定した物産展など(土産品の調達手配)の依頼があつた場合の対応は。

▼当日であれば既存品で対応するしかないが、前もって依頼された場合は相談に応じる。

○バスツアー客などからトイレが渋滞する苦情が多く出るが、苦情処理に対する従業員研修などの対応は。トイレの数は決まっているた

め、販売展示コーナーなどで待ち時間を費やしてもらえようような工夫も必要でないか。

▼他の道の駅の視察の中で責任者からアドバイスなどももらつており、従業員教育を徹底する。

○地元特産品以外に他市町村の特産品を置いている道の駅もあるが、その考えは。

▼道の駅ネットワークを活用し、浦幌町の特産品を他の道の駅で販売

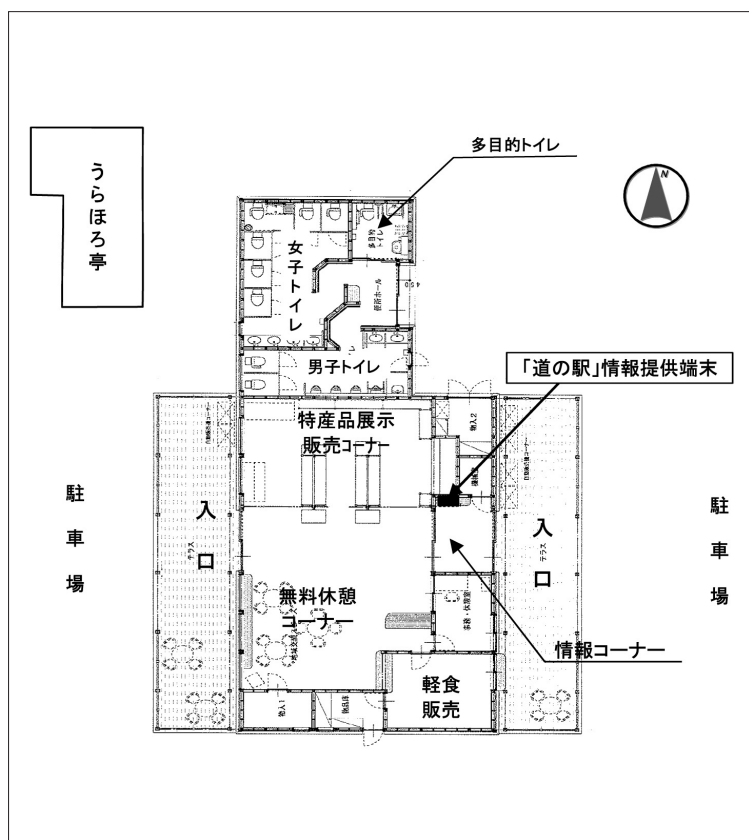
したり、逆に本駅でも町民の方が他市町村に行かなくても買えるような企画(管内道の駅物産フェアなど)も行いたい。

○冬期間は売り上げが減ると思うが、冬期間の販売対策は。

▼海産物や水産加工品などを販売したり、隣接するアイスアリーナ利用者との連携も考えていく。

○各種団体(農協や漁協青年部など)などと連動した道の駅独自のイ

◎道の駅うらほろ施設平面図



ベント計画は。

▼直売会として声かけし、農産物や海産物を一堂に集めた企画を検討する。

○農産物の販売に関し、価格設定の方法、考えは。クレーム対応も含め現場で仕切る責任者が必要でないか。

▼価格は基本的には出品者に設定してもらうが、生産者と協議しながら出来るだけ安く売りたい。現段階では全て女性従業員を予定しているが、クレーム対応として男性の配置も検討している。

○クレーム対応も含め、他の道の駅の例にあるような生産者の顔写真や連絡先を表示する取組の考えは。

▼クレーム対応のマニュアルを作るなど、一つ一つ進めていく。

○道の駅利用者を浦幌市街へ流れ込ませる手だてや考えは。

▼食事関係（ラーメンなど）は、他店との競争の面で提供しない予定。地域とのかかわりといった点で、ハナスタンプを考えたい。

○交流人口の促進という観点から、森林公園や留真温泉などの様々な施設が結びつくよう「道の駅」がその中核となるよう考えていただきたい。

▼衛生上の課題もあるが、留真温泉

のお湯を持つてきて「足湯」といった意見も出されているので、研究していきたい。

○集客面で旅行会社などへの宣伝などの営業努力も必要である。

オープニングセレモニー

9月11日のオープンは、午前10時からオープニングセレモニーが行われます。オープニングセレモニーでは、上浦幌開拓太鼓の演奏が披露される予定となっています。

当日の開館は、セレモニー終了後からとなりますが、「道の駅」うらほる直売会」では、オープニングイベントとして道の駅館内でお買い上げいただいた先着100名のお客様に特産品のプレゼントを用意する予定となっています。

翌12日からは、通常通り午前9時から午後5時までの開館となります。休館日は、12月31日から1月5日までの年末年始となります。

■役場まちづくり政策課まちづくり推進係（Tel 576・2112）▽産業課商工観光係（Tel 576・2181）

国民健康保険における 出産育児一時金の 引き上げについて

「産科医療補償制度」に加入している病院などで分娩した場合の出産育児一時金の支給額が38万円から4万円引き上げられ42万円となり、それ以外の場合は、35万円から4万円引き上げられ39万円となります。

また、医療機関などの窓口で出産費用をできるだけ現金で支払わなくても済むように被保険者などの希望により、保険者から医療機関などに出産育児一時金を直接支払うことができるようになります。

なお、この改正は、平成21年10月1日から平成23年3月31日までの出産についての暫定措置となります。

■役場町民課国民健康保険係（Tel 576・2114）

ステップリフト を設置しました

階段昇降機「ステップリフト」を公民館に設置しました。9月1日よりご利用いただけます。

椅子に座った状態で階段の昇り降りが可能です。

◎設置場所

中央公民館、上浦幌公民館、厚内公民館

■教育委員会社会教育係
(Tel 576-2127)



定額給付金申請受付 残り1カ月となりました！

申請書の提出期限は、9月24日（木）までとなっております。

まだ申請されていない方は、今一度ご確認ください。

■役場まちづくり政策課
まちづくり推進係
(Tel 576-2112)





行政報告

6月22日から23日にかけて の大雨による被害について

本町における降り始めからの総雨量は桜町136ミリ、留真119・5ミリであり、その被害額は、全体で7872万円となっております。内訳としては、住家被害は床下浸水3戸、農業被害は冠水による農作物被害439畝、倒伏222畝、農地の流失等5力所3畝190万円、農道3力所90万円、排水路12力所620万円、土木被害は、道路31路線37力所1430万円、河川13河川16力所4350万円、水産被害は2力所50万円、林業被害は、治山施設4力所200万円、林

道等12力所765万円、衛生被害は、水道取水施設等6力所170万円、ゴミ処理施設1力所7万円の被害を受けております。

また、大雨による河川の増水により海岸線に流木の漂着が確認され、その撤去等について関係機関と調整をしながら対策を実施して参ります。

なお、これらに係る災害応急費につきましては、今町議会臨時会に補正予算を提案しておりますので、よろしくお願いたします。

行政報告

横断自動車道地域活性化 インターチェンジの設置につ いて

北海道横断自動車道黒松内釧路線の仮称浦幌インターチェンジの設置につきましては、既に新聞報道や国土交通省のホームページに掲載されているところですが、同インターチェンジは、地域活性化による農業の振興と観光産業の活性化、防災体制の強化、救急医療支援及び一般国道38号の代替路線の確保を図るため、町道東14線との連結許可を本年2月に北海道開発局に申請したもので、北海道では初めての地域活性化インターチェンジの設置となるものであります。また、このたびの連結許可の背景に

は、平成19年8月に上浦幌地区の農家の方々を中心に設立された「みちと農業を考える浦幌ワークショップ」が、基幹産業である農業と食や観光との連携を念頭に安全・安心な浦幌ブランドの確立と地域の活性化を図るため農産物直売会を通じて地元の機運を高めるなど、地域活性化インターチェンジの設置に向けた継続的な取り組みが実を結んだものと考えております。現在のところ着工時期など詳細については決定しておりませんが、地域活性化インターチェンジ設置による農業の活性化と観光客の入り込みを期待するものであり、引き続きワークショップ活動を支援し、一日も早い供用開始を望むものであります。

行政報告

浦幌町新産業創造等事業の 申請状況について

本町では、新たな産業の創造に対する取り組みへの支援策として、釧路産炭地域総合発展基金を活用して助成金の交付を行い、本町の地域産業の内的、自立的な発展等に資することを目的として浦幌町新産業創造等事業の助成に関する条例を制定し、昨年4月から施行しているところであります。平成21年度新産業創造等事業の第1回目の募集では、浦幌町農業協同組

合から農産物雪氷貯蔵庫整備事業の申請があり、浦幌町新産業創造等事業審査委員会での審議を経て、本年4月に社団法人北海道産炭地域振興センターに助成金交付申請を行いました。

既に同振興センターの理事会並びに通常総会で承認をいただき、北海道知事の承認後、今月中にも最終的な助成金交付決定がされる予定となっております。今後は、町助成金の予算措置につきまして提案する予定であります。

また、平成21年度新産業創造等事業の第2回目の募集では、株式会社エムケイから木質ペレット製造施設整備事業の申請があり、7月3日に浦幌町新産業創造等事業審査委員会を開催し、審査の結果、助成金の交付対象事業として認め、社団法人北海道産炭地域振興センターに助成金交付申請を行ったところであります。

なお、この2件の新産業創造等事業の助成金申請額は、農産物雪氷貯蔵庫整備事業が8270万円、木質ペレット製造施設整備事業が7040万円となっており、本町への助成金配分額の残額は、現在のところ5640万円となっております。

今後は、平成22年度新産業創造等事業の第1回目の募集を予定しており、広報誌とホームページを活用して周知してまいりたいと考えております。